

4 本時の展開

(1) ねらい 教材内のいじめのある学級における問題点とその原因について分析し、いじめをなくすために必要な考え方について多面的・多角的に議論する活動を通して、公平、公正で差別や偏見のない社会の実現に努めようとする道徳的判断力を育成する。

(2) 準備 タブレット（ロイロノート）、ホワイトボード、マーカー

(3) 展開

	視点1（5分） めあてに関心や問題意識、必要感をもって理解したか。	視点3（40分） グループやクラス全体の対話を通して協働して問題解決をしているか。	◎ — 中心発問 ◇ — 補助発問	視点5（5分） この時間の学びが自分にとって意味や価値があったと自覚しているか。
主な学習活動	○事前アンケートの結果を基にいじめについて話し合い、いじめは絶対に許されないという強い意志をもつとともに、いじめがなくなるらないことについて問題意識をもつ。（人間理解）	○それぞれの立場からいじめの原因について考え、差別や偏見のない集団を実現できなかった考え方や感じ方についての理解を深める。（他者理解）	○班でのまとめや他の班の発表を聞いて深めた考えを基に、いじめをなくすために大切な考え方について多面的・多角的に考える。（他者理解・価値理解）	○今日の授業を通して、学んだことや考えたことを振り返る。（価値理解）
発問	・なぜいじめはなくなるらないのか。	◎なぜこのようないじめが起きてしまったのでしょうか。 ◇一番の原因はなんだろう。	・いじめを許さない集団や社会を自分たちの手で実現するために、必要なことは何だろう？	・今までの自分と今後の自分を比較しながら、振り返りをしましょう。
生徒の意識	<ul style="list-style-type: none"> 本授業における生徒の問題意識の階層 ①いじめはよくない。 ②いじめのある集団にはいたくない。 ③ところが、日常的にも起こりうることから、いじめは発展していく。 ダメだとわかっているのに、なぜいじめが起ってしまうのだろう。 自分より立場が弱い人をつくりたいのでは？ 加害者の自覚がないから、周囲の人たちが止めないからいじめはなくなるらない。 いじめのない社会は、自分たちがつくっていく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【めあて】 いじめを許さない集団や社会を自分たちの手で実現するために、必要なことは何だろう。</p> </div>	<p>【「私」に関わること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の悪行を隠したくて、相手を貶めた。 弱い存在への優越感、偏見。周囲への同調。 悪いことをしたと後悔しているが謝っていない。 <p>【「悪童たち」に関わること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 嘸し立てる、先生にも報告しない。 勝手に決めつけ、Tさんの味方になっていない。 <p>【「T子さん」「その他」に関わること】</p> <ul style="list-style-type: none"> Tさんは本当の友達がほしい。素直に褒めて、関わりをもちたかったのではないか。 Tさんは誰にも相談せずに、じっと耐える強い心をもっている。 先生がもっと早く気付いてあげれば良かった。 この状況を見ている傍観者がいるはずだ。その人たちが止められたはずだ。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめを許さない集団や社会を自分たちでつくっていくためには、私心にとらわれて事実をゆがめないことが大切である。 相手の気持ちや状況を深く想像する。 ダメなものはダメと言える雰囲気作り。 自他の不公正を許さない雰囲気を作っていくことも大切だ。 自分と違うという理由で除外しようとする考え方・偏見や差別をなくす。 正直、自分一人では注意をすることができないので、みんなで注意をしたり、先生に報告をしたりする。 嫌なことがあったら、エスカレートする前に誰かに相談をする。 	<ul style="list-style-type: none"> やはりいじめは絶対に許されないものだと思う。今までは、自分が巻き込まれないように避けてきたが、これからは、被害者に寄り添えるようにしたい。 いじめは何があっても絶対にしてはいけないと再認識できた。いじめを見たら、相手の気持ちや状況をよく判断するなど自分から行動を起こすことが大切だと感じた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価の視点】 いじめを許さない公正、公平な集団や社会を自分たちの手で実現するために必要なことについて、様々な立場から多面的・多角的に自分と関わらせて考えている。</p> </div>
教師の手立て関わり	<ul style="list-style-type: none"> なぜいじめはなくなるらないのかを考える場面では、「本当にそれだけだろうか」と問い返し、本時の学習へ熱意をもって取り組めるようにする。 登場人物の心情やおかれた状況などの情報を生徒に示してから範読することで、状況の理解を促し、教材の読み取り中心の授業にならないようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「私」は自分が行ったカンニングの罪をTさんに擦り付け、周りの人たちとさらに中傷をしてしまったことを、約30年も後悔している。なぜこのような大きないじめが起きてしまったのか考えながら聞いてみましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードにはキーワード化して書かせ、多様な意見が表れるように支援していく。 被害者が原因という意見には、Tさんが登校を続け、好成績を維持する心の強さを説明し、加害者や傍観者にある本当の原因に目を向けられるよう支援する。 一番の原因を考えることで他の班との違いを引き出し、活発にその後の交流が行われるようにする。 ホワイトボードを黒板に掲示し、さらに意見を聞きたい班があれば質問や反論をする時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 「誰が」を伝えずに問いかけることで、様々な立場から考えられるようにする。 黒板には、キーワード化して板書することで、終末での振り返りにつながりをもって取り組めるようにする。 「具体的には?」「理由は?」「なぜそう思ったの?」と問い返すことで行動の裏にある思いを表面化させ、生徒の考えを広げるとともに、表面的な意見に対しては更に考えを深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えの変容や普段の生活における自身の言動を振り返って考え、公平、公正で差別や偏見のない社会を自分たちの手で実現させようとする判断力についての考えを深めることができるようにする。 説話では、「最後の二行」に触れることで、被害者の立場からいじめは絶対に許せないことを伝える。